

令和4年度版
行田市環境報告書
～この地球とともに～
(案)

写真

令和5年3月
行田市

目 次

行田市環境報告書とは？	1
（1）環境報告書が作られるまで	1
（2）目的	1
（3）構成	2
第1章 環境に関する市の取組について	3
（1）環境に関する計画等の位置づけ	3
（2）環境基本計画の概要	4
（3）環境基本計画の点検・評価の仕組み	5
第2章 環境基本計画の進捗状況及び市内の環境について	7
（1）施策の進捗及び数値目標の達成状況	8
①基本目標1 環境負荷の低減による循環型社会の形成	9
②基本目標2 先人から受け継いだ自然環境の保全	21
③基本目標3 省エネ・創エネによるエコタウンの創出	29
④基本目標4 環境意識の向上と環境配慮活動の推進	36
資料 指標・評価一覧表（令和3年度分）	

行田市環境報告書とは？

(1)環境報告書がつくられるまで

市は、平成14年に「行田市環境基本条例」を制定し、環境の保全及び創造に関する基本理念を定めるとともに、市、事業者及び市民の責務を明らかにしています。また、平成16年3月に「行田市環境基本計画」を策定し、その後の社会経済環境などの変化を受け、平成21年3月に見直しを行いました。

その後、生活・自然・地球環境などに対する取り組みを総合的かつ計画的に推進する「第2次行田市環境基本計画」及びこの環境基本計画の実効性をより確実にすることを目的とした「第2次行田市環境基本計画実行計画（前期）」を平成26年3月に策定、「第2次行田市環境基本計画実行計画（後期）」を平成31年3月に策定しました。

これらを受けて、毎年度、市の環境の現状や、環境に関する施策の進捗状況などを整理した『行田市環境報告書』の作成を行っています。

(2)目的

行田市環境報告書は、市民のみなさまに市の環境行政の進捗状況をお伝えすることを目的としています。

読者・利用者の目的に応じて、さまざまな使い方が考えられます。例えば、こんなときに使ってみてはどうでしょうか。

- 行田市の環境がどうなっているのか知りたい！
- 行田市の環境への取り組みについて知りたい！
- 環境保全活動への参加のヒントにしたい！
- 公害問題の現状を知りたい！・・・・・・など

(3)構成

この環境報告書は、次のように2章から構成されています。

■第1章:環境に関する市の取組について

環境基本計画をはじめとする環境に関する各種計画の位置づけや、環境基本計画の概要、点検・評価の仕組みについて紹介しています。

■第2章:環境基本計画の進捗状況及び市内の環境について

市の自然環境、生活環境（公害）、都市環境、資源・エネルギー、環境保全活動の現状について紹介するとともに、環境基本計画に掲げられている施策の進捗状況及び指標・目標の達成状況について報告しています。



●—— 第1章 環境に関する市の取組について ——●

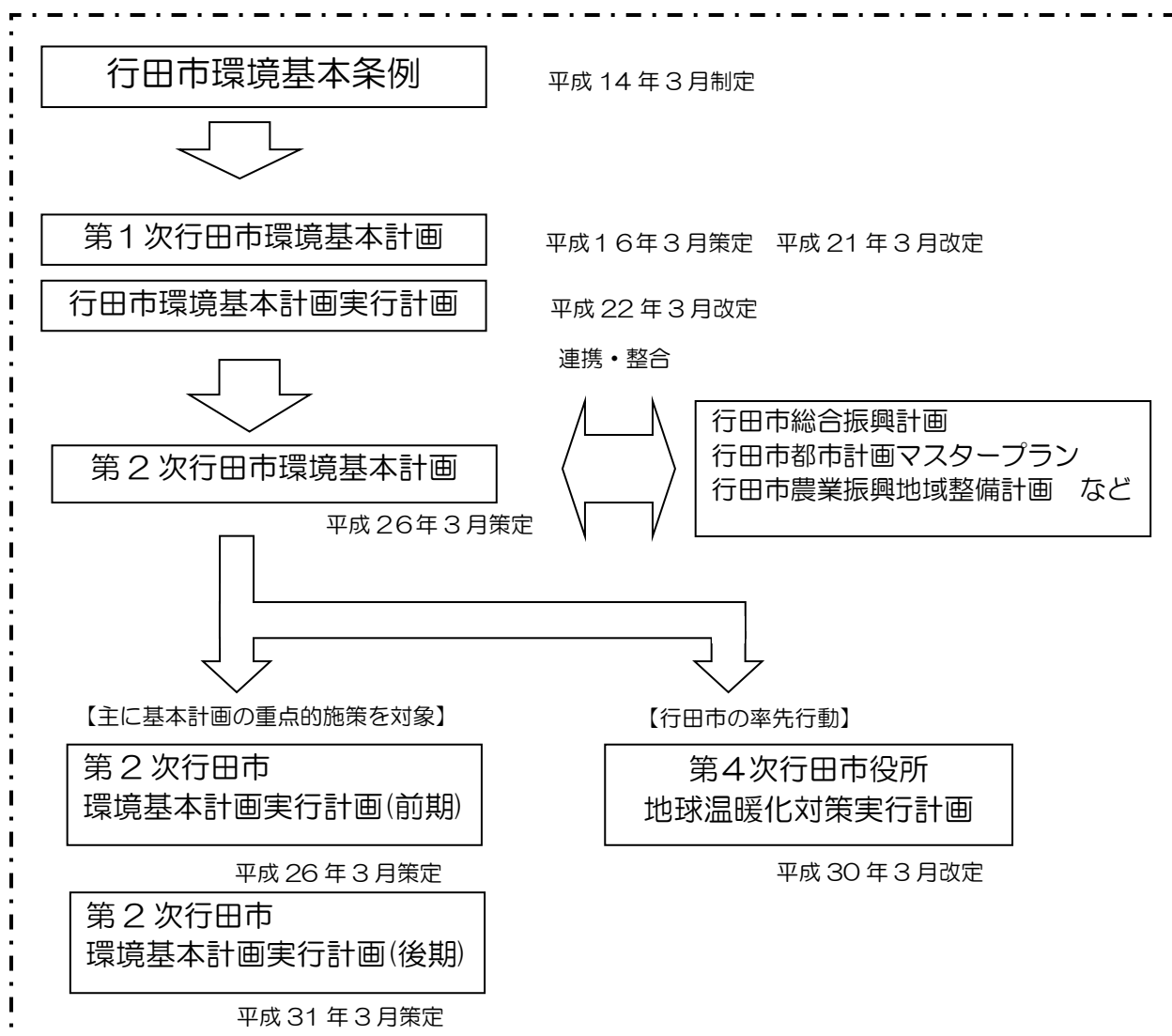
本章では、市の環境の保全や創造に関する施策を進めるための計画である『行田市環境基本計画』（以下、「環境基本計画」という。）を中心とする環境に関する計画等の位置づけや、環境基本計画の概要、進行管理の体制等を紹介します。

(1)環境に関する計画等の位置づけ

市では、平成14年3月に制定された『行田市環境基本条例』をはじめとし、環境基本計画、実行計画等を策定し、環境への取組を進めてきました。

これらの環境に関する計画等の位置づけは、以下のとおりです。

●環境に関する計画等の位置づけ



(2)環境基本計画の概要

「環境基本計画」は、行田市環境基本条例の理念に基づいて、市の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画であり、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として、平成 16 年 3 月に「第 1 次行田市環境基本計画」を策定しました。

その後、少子・高齢化、人口減少社会の到来など、市を取り巻く状況が大きく変化し、行政に求められる課題も高度化・多様化しており、これらの課題に対応するため、生活・自然・地球環境に対する取組を総合的かつ計画的に推進する「第 2 次行田市環境基本計画」を平成 26 年 3 月に策定しました。

○計画の期間

計画の期間は、平成 26 年度（2014 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までの 10 年間です。

ただし、社会・経済・環境など著しく変化した場合には計画を見直すなど、柔軟に対応するものとします。

○計画の推進主体及び対象範囲

計画の推進主体は、市民（NPO 団体）、市内に事業所を持つ事業者及び行田市の三者です。

また、計画では生活環境、自然環境、地球環境、啓発活動のすべてを対象範囲とします。

○行田市の望ましい環境像と4つの基本目標

環境基本計画では、望ましい環境像と、その実現に向けた基本目標を以下のとおり設定しています。

★行田市の望ましい環境像

人々の生活と豊かな自然が共生できる環境にやさしいうるおいのあるまち

★4つの基本目標

環境負荷の低減による循環型社会の形成

先人から受け継いだ自然環境の保全

省エネ・創エネによるエコタウンの創出

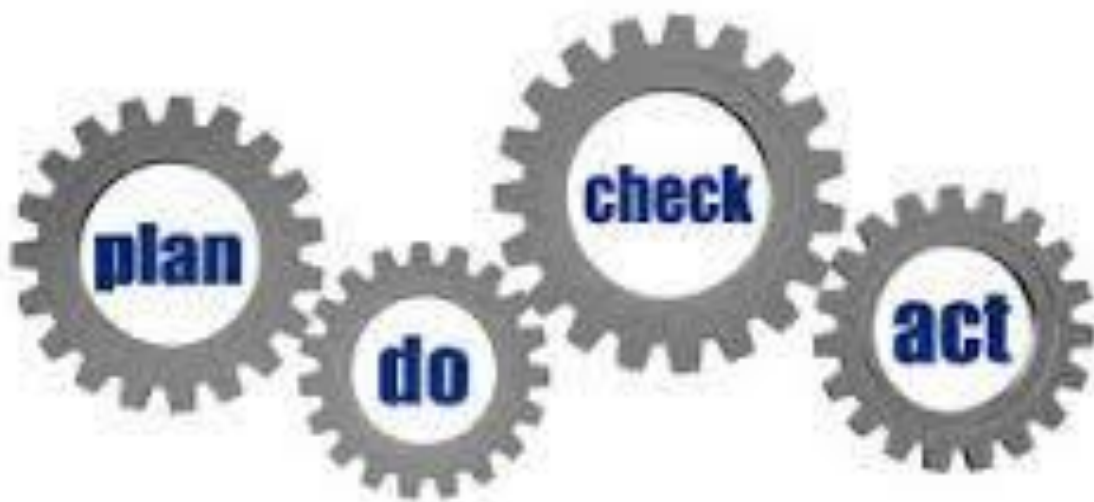
環境意識の向上と環境配慮活動の推進

環境基本計画の実効性をより確実にするために策定された実行計画は、重点的施策に係る個別目標及び実施スケジュール、計画の進捗状況・目標達成状況を評価するための数値目標などを定めています。

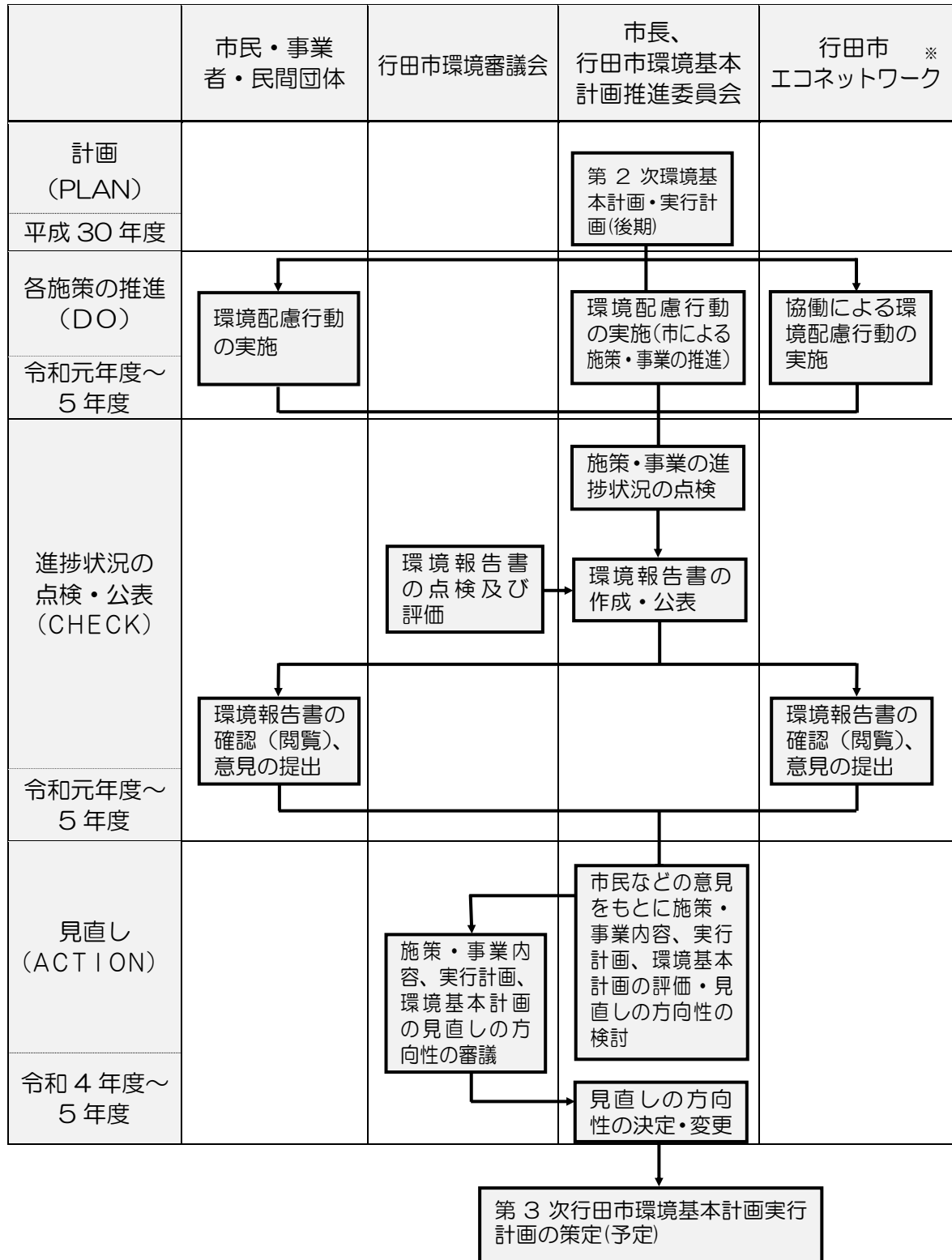
(3)環境基本計画の点検・評価の仕組み

環境基本計画を着実に進めるために、市民、事業者及び市による自主的な取り組みと、継続的な改善が必要です。そのため、環境基本計画の進行管理は、6 ページの表のとおり、計画（Plan：環境基本計画、実行計画、配慮指針）→各施策の推進（Do）→進捗状況の点検・公表（Check）→見直し（Action）という、PDCA サイクルによる進行管理システムを導入しています。

このシステムは、環境基本計画に基づく各主体の取り組みの進捗状況を点検・評価して、環境報告書を公表し、各主体、各組織のコミュニケーションを図りながら、今後の施策・事業のあり方や計画の見直しに反映させようというものです。



●進行管理の流れ



※「行田市エコネットワーク」は、環境を中心に活動している民間団体の総称です。

第2章 環境基本計画の進捗状況 及び市内の環境について

本章では、環境基本計画の進捗として、基本目標ごとに定められた重点的施策の進捗を中心として、各数値目標の達成状況について報告するとともに市の環境の現状について紹介します。

●4つの基本目標とは？

第2次行田市環境基本計画（4ページ参照）は、望ましい環境像『人々の生活と豊かな自然が共生できる環境にやさしいうるおいのあるまち』を実現するための目標として、以下のとおり「4つの基本目標」を設定しています。

基本目標1

環境負荷の低減による
循環型社会の形成

快適な生活環境を確保するとともに廃棄物の減量、リサイクルなどを推進し、環境負荷を低減した持続可能なまちをめざします。

基本目標2

先人から受け継いだ
自然環境の保全

利根川、忍川、星川などの水辺とさきたま古墳公園、古代蓮の里、水城公園などの歴史的、文化的資産を共に守り育て、自然環境を保全するまちをめざします。

基本目標3

省エネ・創エネによる
エコタウンの創出

エネルギー消費の削減、再生可能エネルギーの活用などを推進し温室効果ガスの排出が少ない地球環境に配慮したまちをめざします。

基本目標4

環境意識の向上と
環境配慮活動の推進

日常生活、環境学習などの場を通じて、一人ひとりの環境への意識を高め、自主的に行動するまちをめざします。

●重点的施策とは？

環境基本計画では、望ましい環境像の実現に向けて、早急かつ重点的に取り組むべき5つの施策を「重点的施策」として設定しています。

<重点的施策>

廃棄物減量化の推進

（基本目標1）

緑地環境の保全

（基本目標2）

省エネルギーの推進
創エネルギーの推進
（基本目標3）

環境教育の充実

（基本目標4）

(1) 施策の進捗及び数値目標の達成状況

ここでは、4つの基本目標に沿って、令和3年度における実行計画で設定した目標の達成状況を報告します。

実行計画で設定した目標は、1年間の達成状況を目標とする「単年目標」と、これまでの達成状況の合計を目標とする「累計目標」に分かれます。

「単年目標」は、1年間の実績値を毎年度評価します。「累計目標」は、目標年度までの実績値の合計を目標年度に評価します。なお、目標年度以前における「累計目標」については、毎年度進捗状況を点検します。

達成度を評価する基準は、以下のとおりです。

目標の設定方法

	目標年度の表記	実績値	評価年度
単年目標	(毎年度)	1年間値	毎年度
累計目標	(令和〇〇年度)	これまでの累計値	目標年度

目標・指標設定にあたってのポイント

- ①市民にとってわかりやすいこと
- ②なるべく身近で実感しやすいものであること
- ③複数の観点から、基本目標の達成状況を測れるものであること

評価基準一覧

評価基準	
A	目標が達成されている（目安；100%）
B	目標達成のための取組は行われており、概ね達成されている（目安；80%以上）
C	目標達成のための取組は行われているが、達成がやや不十分である（目安；40%～80%）
D	目標達成のための取組は行われているが、達成が不十分である（目安；40%未満）
E	目標達成のための取組が実施されていない（目安；0%）
- (ハイフン)	評価することが困難である 事業実施予定なし

① 基本目標 1 ～環境負荷の低減による循環型社会の形成～

基本目標 1 に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、令和 3 年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 1 の重点的施策 】

～廃棄物減量化の推進～(P16～20)

●総括 重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は 10（廃棄物の適正処理：6、4Rの推進：4）、施策に対する事業数は 10（廃棄物の適正処理：6、4Rの推進：4）、施策の進捗や効果を測る指標・目標は 11（廃棄物の適正処理：5、4Rの推進：5、達成状況が把握できない指標・目標は 1）あります。取組状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	10事業を予定どおり実施しました。（実施率100%）
目標達成状況	<p>【単年目標】 単年目標である6指標すべてで目標値を達成しています。</p> <p>【主な累計目標の進捗率】</p> <ul style="list-style-type: none">・「資源物のリサイクル率」については、平成 26 年度より新たなりサイクル品目として「小型家電」を追加していますが、進捗率は 31% となっています。・「不用品情報利用件数」については、平成 25 年度から希望者の利便性を図るため写真の提示を開始するなど工夫をしており、進捗率は 81.2% となっています。・「廃食用油の回収量」については、バイオディーゼルの燃料とするため回収しています。今年度は、昨年度に引き続き回収量が少なくなっています。引き続き市民に広報していきたいと考えています。・「ごみ集積所における未分別件数」については、目標値を大幅に下回っています。転入者への周知やごみ出しマニュアル等の多言語化など分別方法の周知を徹底するとともに、未分別ごみの多い集積所では、直接注意喚起を行うなど、対策を実施していきます。

●施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

1-1.大気環境の保全

1. 大気汚染物質の発生源対策(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
ダイオキシン類濃度	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 】 (毎年度)	実績	0.018 pg-TEQ/m ³	0.034 pg-TEQ/m ³	0.013 pg-TEQ/m ³		
		評価	A	A	A		
浮遊粒子状物質濃度 (SPM)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.1\text{mg}/\text{m}^3$ 】 (毎年度)	実績	0.016 mg/m ³	0.016 mg/m ³	0.015 mg/m ³		
		評価	A	A	A		
二酸化硫黄濃度 (SO ₂)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.04\text{ppm}$ 】 (毎年度)	実績	0.000 ppm	0.000 ppm	0.001 ppm		
		評価	A	A	A		
二酸化窒素濃度 (NO ₂)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.04\text{ppm}$ 】 (毎年度)	実績	0.008 ppm	0.009 ppm	0.008 ppm		
		評価	A	A	A		

参考資料

《環境基準》

環境基準とは、大気の大気汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び騒音に係る環境上の条件について、それぞれ、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準を定めたもので、環境基本法により政府が定めるものとされています。

排出基準とは異なり規制基準ではありませんが、これを達成することが望ましいものとされます。

●大気汚染物質濃度測定結果(R3)

《大気の現状》

大気中の浮遊粒子状物質 (SPM)、二酸化窒素 (NO₂)、二酸化硫黄 (SO₂)、ダイオキシン類といった大気汚染物質の濃度については、令和2年度は、令和元年度に引き続きいずれの大気汚染物質濃度も環境基準値以下でした。

項目	濃度	環境基準
ダイオキシン (pg-TEQ/m ³)	0.013 (行田市役所)	0.6
SPM (mg/m ³)	0.015 (行田)	0.10
SO ₂ (ppm)	0.001 (熊谷)	0.04
NO ₂ (ppm)	0.008 (行田)	0.04

資料：環境課

括弧内は測定局名

大気汚染物質の発生源対策(環境課 19・消防本部 47)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
野外焼却に対する 指導件数	50 件以下 (令和 5 年度)	実績	33 件	51 件	66 件		
		評価	A	B	C		

2. 自動車排出ガスの抑制(財産管理課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
低公害車などの導 入率(公用車)	49.1% (令和 5 年度)	実績	67.3% 109/162 台	69.3% 113/163 台	70.1% 115/164 台		
		評価	A (137.1%)	A (141.1%)	A (142.8%)		

自動車排出ガスの抑制(交通対策課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
低公害車などの導 入率 (市内循環バス)	100% (毎年度)	実績	100% 8/8 台	100% 8/8 台	100% 8/8 台		
		評価	A	A	A		

3. 有害物質の適正使用・排出抑制(商工観光課・道路治水課・都市計画課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
有害性の低い薬剤 の使用(樹木など)	全箇所 (毎年度)	実績	全箇所	全箇所	全箇所		
		評価	A	A	A		



1-2.水及び土壌環境の保全

1. 公共用水域の監視(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
生物化学的酸素要求量(BOD) 環境基準達成率 5 mg/ℓ以下 (5 河川×年 4 回)	100% 【20/20 検体】 (毎年度)	実績	16/20 検体	16/20 検体	18/20 検体		
		評価	B (80%)	B (80%)	B (90%)		
水素イオン濃度指数 (pH) 環境基準達成率 6.5~8.5 (5 河川×年 4 回)	100% 【20/20 検体】 (毎年度)	実績	18/20 検体	18/20 検体	19/20 検体		
		評価	B (90%)	B (90%)	B (95%)		
浮遊物質量(SS) 環境基準達成率 50 mg/ℓ以下 (5 河川×年 4 回)	100% 【20/20 検体】 (毎年度)	実績	18/20 検体	18/20 検体	19/20 検体		
		評価	B (90%)	B (90%)	B (95%)		
溶存酸素量(DO) 環境基準達成率 5 mg/ℓ以上 (5 河川×年 4 回)	100% 【20/20 検体】 (毎年度)	実績	17/20 検体	20/20 検体	19/20 検体		
		評価	B (85%)	A (100%)	B (95%)		
化学的酸素要求量 (COD) 環境基準※達成率 5 mg/ℓ以下	100% 【20/20 検体】 (毎年度)	実績	5/20 検体	11/20 検体	8/20 検体		
		評価	D (25%)	C (55%)	C (40%)		
全窒素(T-N) 環境基準※達成率 1 mg/ℓ以下 (5 河川×年 2 回)	50% 【5/10 検体】 (毎年度)	実績	0/10 検体	2/10 検体	1/10 検体		
		評価	E (0%)	D (20%)	D (10%)		
全リン(T-P) 環境基準※達成率 0.1 mg/ℓ以下 (5 河川×年 2 回)	50% 【5/10 検体】 (毎年度)	実績	0/10 検体	1/10 検体	0/10 検体		
		評価	E (0%)	D (10%)	E (0%)		

※湖沼の基準を準用 ※次ページ「参考資料」を参照。

公共用水域の汚濁防止(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
合併処理浄化槽の 転換補助件数	40 件以上 (毎年度)	実績	47 件	27 件	34 件		
		評価	A	C	B		

公共用水域の汚濁防止(下水道課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
下水道普及率	58.8% (令和 5 年度)	実績	55.94%	56.49%	57.1%		
		評価	B (95.1%)	B (96.1%)	B (97.1%)		

参考資料

《水質の現状》

市では、市内を流れる忍川、長野落、北河原用水、左幹線用水路及び酒巻導水路の5河川で水質調査を行っています。調査項目は、生物化学的酸素要求量（BOD）、水素イオン濃度指数（pH）、浮遊物質（SS）、溶存酸素（DO）、化学的酸素要求量（COD）、全窒素（T-N）、全リン（T-P）です。

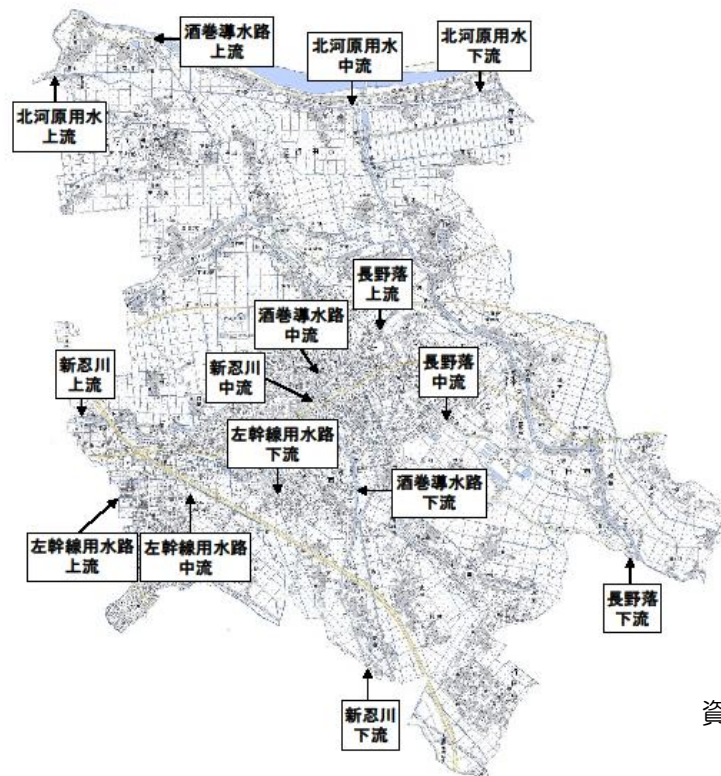
水質汚濁の指標となるBODの年間平均値は、長野落以外の4河川で環境基準を達成しています。また、令和3年度のT-Pの調査結果は、すべての河川で環境基準を未達成となっています。

●令和3年度河川別水質調査結果

	BOD (生物化学的酸素要求量) mg/l	pH (水素イオン濃度)	SS (浮遊物質) mg/l	DO (溶存酸素量) mg/l	COD (化学的酸素要求量)mg/l	T-N (全窒素) mg/l	T-P (全リン) mg/l
忍川	2.3	7.7	20	9.4	4.1	1.6	0.15
長野落	8.7	7.7	24	6.8	9.2	2.8	0.61
北河原用水	3.2	7.7	30	8.7	5.9	2.4	0.27
左幹線用水路	2.5	8.2	38	11.5	8.4	0.9	0.12
酒巻導水路	2.8	8.0	20	10.4	6.3	2.1	0.21
環境基準	5以下	6.5~8.5	50以下	5以上	5以下	1以下	0.1以下

※年間の平均値

河川水質調査箇所



資料：環境課

2. 土壌・地下水汚染の防止(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
土壌のダイオキシン類濃度 環境基準達成率 1,000pg-TEQ/g (3カ所×年1回)	100%【3/3ヶ所】 (毎年度)	実績	3/3ヶ所	3/3ヶ所	3/3ヶ所		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		
河川底質のポリ塩化 ビフェニル(PCB) 暫定除去基準達成率 10ppm以下 (4カ所×年1回)	100%【4/4ヶ所】 (毎年度)	実績	4/4ヶ所	4/4ヶ所	4/4ヶ所		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		
河川底質の総水銀 (T-Hg) 暫定除去基準達成率 25ppm以下 (4カ所×年1回)	100%【4/4ヶ所】 (毎年度)	実績	4/4ヶ所	4/4ヶ所	4/4ヶ所		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		
地下水水質のトリク ロロエチレン 環境基準達成率 0.01 mg/ℓ以下 (5ヶ所×年1回)	100%【5/5ヶ所】 (毎年度)	実績	5/5ヶ所	5/5ヶ所	5/5ヶ所		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		
地下水水質テトラク ロロエチレン 環境基準達成率 0.01 mg/ℓ以下 (5ヶ所×年1回)	100%【5/5ヶ所】 (毎年度)	実績	5/5ヶ所	5/5ヶ所	5/5ヶ所		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		
地下水水質 1,1,1- トリクロロエタン 環境基準達成率 1 mg/ℓ以下 (5ヶ所×年1回)	100%【5/5ヶ所】 (毎年度)	実績	5/5ヶ所	5/5ヶ所	5/5ヶ所		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		

参考資料

《土壌の現状》

市では、土壌中のダイオキシン類濃度を測定しています(市内3ヶ所)。令和2年度は、いずれの地点も環境基準以下でした。

●土壌中ダイオキシン類濃度測定結果(R3)

調査地点	濃度(pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
馬見塚公園	0.42	1,000
鶴土井公園	5.6	
地域文化センター	0.71	

資料：環境課

※濃度の数値は、有効数字2桁で表示する。(ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアルより)

3. 地盤沈下対策 (道路治水課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
透水性舗装の整備面積	41,000m ² (令和5年度)	実績	37,369.4 m ²	37,369.4 m ²	37,369.4 m ²		
		評価	B (91.1%)	B (91.1%)	B (91.1%)		

※令和3年度実績 0 m²

1-3. 騒音・振動・悪臭の防止

1. 騒音・振動・悪臭対策 (環境課)

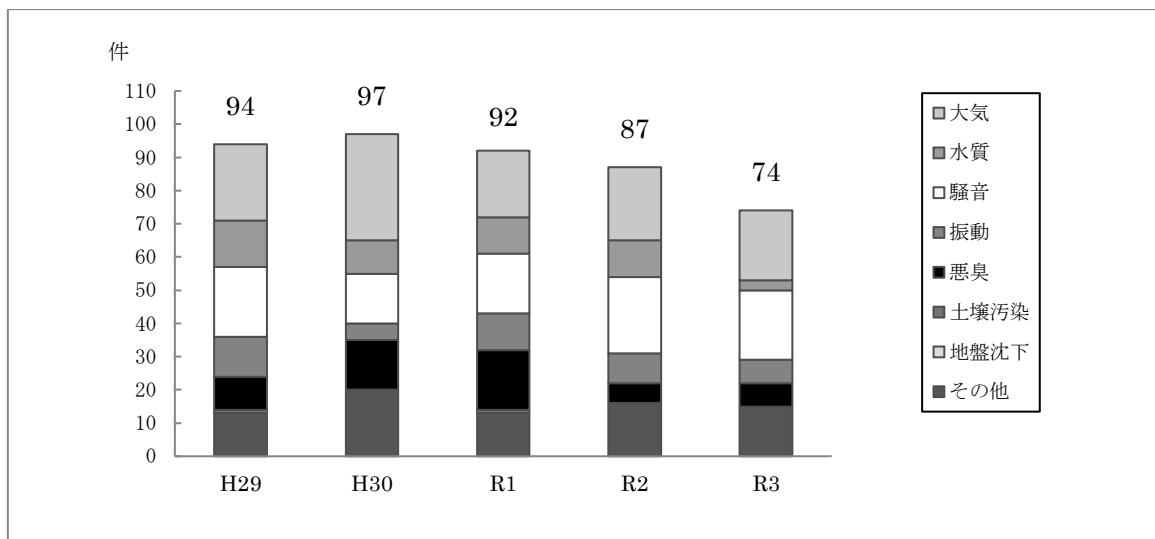
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
道路騒音の環境基準達成率	6/6 地点 (令和5年度)	実績	3/6 地点	5/6 地点	3/6 地点		
		評価	C (50%)	C (83%)	C (50%)		
上越・長野新幹線騒音の測定値	70dB 以下 (令和5年度)	実績	71dB	73dB	70dB		
		評価	B	B	A		

参考資料

《市民からの相談件数》

市民からの環境課への相談件数は、令和3年度は合計74件で、令和2年度より13件減少しました。相談の内容をみると、騒音と大気にするものが21件で最も多く、振動7件、悪臭7件、水質3件、その他15件と続いています。

●相談の件数



資料：環境課

1-4. 廃棄物減量化の推進 ☆重点的施策☆

1. 廃棄物の適正処理

(1) 家庭でのごみ分別の推進 (環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
家庭でのごみの分別を推進する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
ごみ集積場における未分別件数	220件以下 (令和5年度)	実績	459件	569件	469件		
		評価	D	D	D		

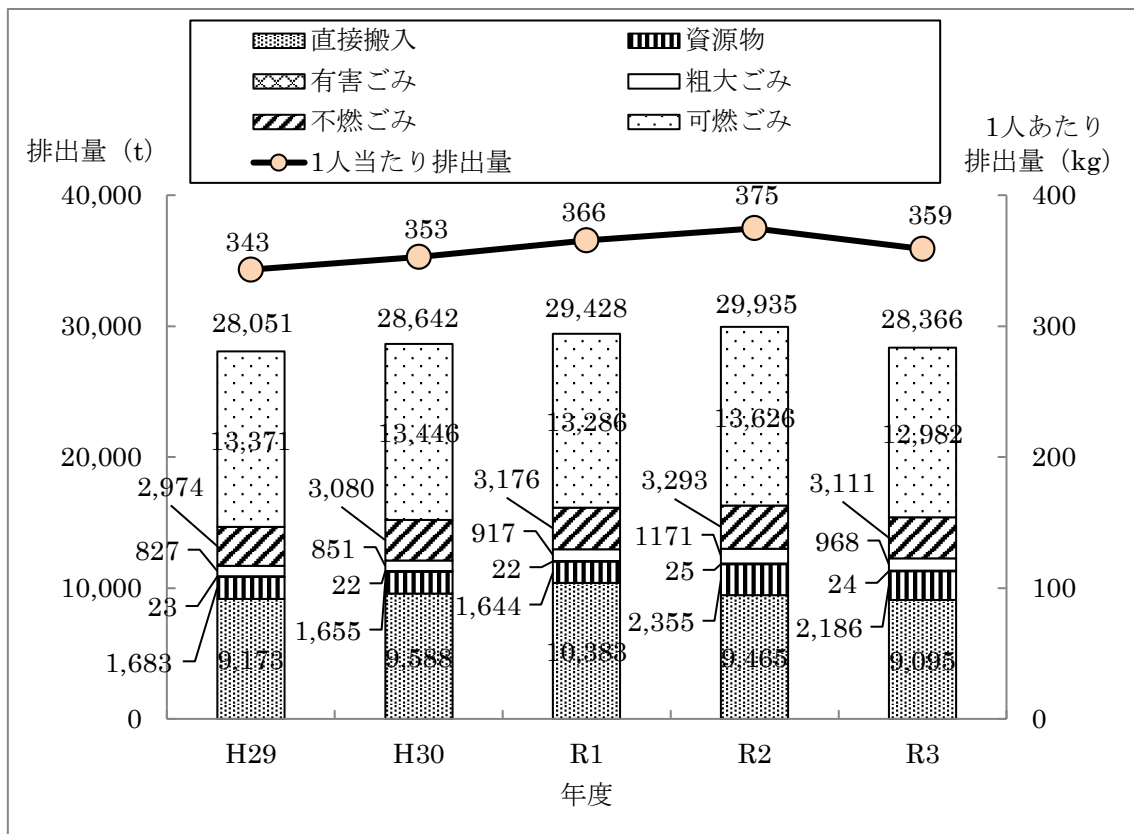
参考資料

《ごみ排出量の推移》

令和3年度のごみ排出量は28,366トンで、前年度より1,569トン減少しました。一人あたりの排出量で見ると、前年度より16kg減少しました。

種類別にみると、可燃ごみが約半分を占めています。無駄な食材を買わずに生ごみを減らす、紙を大量に消費しないなど、生活の中で取り組めることも多くありますので、一人ひとりが気をつけていくことが大切です。

●ごみ排出量の推移



資料：環境課

(2) 粗大ごみ処理場の適正な運転管理 (粗大ごみ処理場)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
粗大ごみ処理場の適正な運転管理を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
稼働率(年間処理量÷年間処理能力×100)	100%以下(毎年度)	実績	82.0%	80.0%	70.5%		
		評価	A	A	A		

(3) 環境センターの適正な運転管理 (環境センター)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
環境センターの適正な運転管理を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
放流水の水質※ 基準達成率	100%【500検体/500検体】 (毎年度)	実績	500/500 検体	500/500 検体	500/500 検体		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		

※pH、BOD、SS、ノルマルヘキサン（動植物・鉍物）、T-N、T-P、アンモニア性・亜硝酸性及び硝酸性窒素、ヨウ素、温度

(4) 長善沼最終処分場の適正な管理 (環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
長善沼最終処分場の適正な管理を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
地下水の水質※ 基準達成率 (2ヶ所×年12回)	100% 【48/48検体】 (毎年度)	実績	48/48 検体	48/48 検体	48/48 検体		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		

※地下水環境基準項目 23 項目及びダイオキシン類

(5)一般廃棄物処理施設の新設 (環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
廃棄物を適正に処理するため、新処理施設を建設する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
—※	—	実績	—	—	—	/	/
		評価	—	—	—	/	/

※鴻巣行田北本環境資源組合による新施設整備事業は、令和元年 12 月に白紙化されました。
数値化が困難なため、指標設定なし。

(6)不法投棄防止看板の設置 (環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
市民からの情報提供により、不法投棄をされやすい場所に、看板を設置する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
看板の設置件数	前年度より 2 枚減 (毎年度)	実績	-4 枚 (45 枚)	+45 枚 (90 枚)	-42 枚 (48 枚)	/	/
		評価	A	D	A	/	/



2. 4R (リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ) の推進

(1) 資源物の収集の徹底 (環境課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
資源物を、缶・ビン・紙・布などに細分化し、収集の徹底を図る。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
リサイクル率(資源収集量÷(ごみ収集量+資源収集量)×100)	25% (令和5年度)	実績	7%	7.9%	7.7%		
		評価	D (28%)	D (32%)	D (31%)		

(2) 不用品情報の提供・利用 (環境課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
市報に不用品情報を掲載し、不用品の再利用の促進を図る。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
不用品情報の利用件数	500件 (令和5年度)	実績	243件	250件	406件		
		評価	C (48.6%)	C (50.0%)	B (81.2%)		

(3) 廃食用油のリサイクル (環境課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
バイオディーゼルの原料とするため、使用済みの食用油を回収する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
廃食用油の回収量	3,500kg (令和5年度)	実績	3,290kg	2,340kg*	2,110kg		
		評価	B (94%)	C (67%)	C (60%)		

※令和2年度は春のごみゼロ運動が中止になったことにより、廃食用油の回収量が減少。

(4)届出工事の点検・パトロールの実施(建築開発課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
建設リサイクル法に基づく届出について、点検・パトロールを行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
届出に対する分別解体状況の確認	100% (毎年度)	実績	100% (144件)	100% (97件)	100% (135件)		
		評価	A	A	A		
無届工事の監視・パトロール回数	週1回 (毎年度)	実績	週1回	週1回	週1回		
		評価	A	A	A		



②基本目標 2 ～先人から受け継いだ自然環境の保全～

基本目標 2 に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、令和 3 年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 2 の重点的施策 】

～緑地環境の保全～(P23～27)

●総括 重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は 10、施策に対する事業数は 10、施策の進捗や効果を測る指標・目標は 10 あります。取組状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	7 事業を予定どおり実施しました。（実施率 70%） 2 事業は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できませんでした。
目標達成状況	【単年目標】 ・単年目標である 4 指標のうち 3 指標で目標を達成しました。（達成率 75%） 【主な累計目標の進捗率】 ・「緑道の面積」、「公園の面積」については、平成 27 年度に策定された「行田市みどりの基本計画」に沿った目標設定になっています。 ・「樹木や雑草などの管理に関する指導件数」については、「空き家情報の連絡に関する協定」に基づき、各自治会から寄せられた空き家情報に対し、「行田市老朽空き家等の適正管理に関する条例」や「行田市空き地の環境保全に関する条例」等により連携することで、潜在的な空き家・空き地の現状が把握されたため、指導件数が増加傾向にあります。

●施策の進捗と目標達成状況(詳細)

2-1. 地域生態系の保全

1. 動植物の生息空間の創出(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
ビオトープの設置数	1ヶ所維持(毎年度)	実績	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所		
		評価	A	A	A		

2. 動植物の実態把握(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
希少種の数 (自然環境調査)	26種 (令和5年度実施)	実績	—	—	—		
		評価	—	—	—		
動植物の種類 (自然環境調査)	396種 (令和5年度実施)	実績	—	—	—		
		評価	—	—	—		

※下記参考資料を参照。

動植物の実態把握(文化財保護課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
指定文化財(樹木) の箇所数	11箇所 (毎年度)	実績	11箇所	11箇所	11箇所		
		評価	A	A	A		

3. 特定外来生物などの管理(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
啓発活動件数	1回 (毎年度)	実績	2回	3回	2回		
		評価	A	A	A		

参考資料

《自然環境調査》 夏季(8月)及び秋季(10月)の2回実施

市内の動植物の生息・生育状況を把握し、地域の特徴を活かした適切な保護・保全対策の検討を行っていくために、平成24年度に自然環境調査を実施しました。調査は、荒木地区長善沼、北河原地区切り所沼、南河原地区星川、埼玉地区小埼玉周辺の4地点で実施しました。

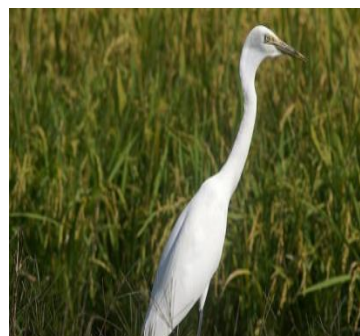
植物は8種類(ミズワラビ、コギシギシ、コイヌガラシ、ヒメミソハギ、ミズマツバ、コキクモ、キクモ、キタミソウ)、哺乳類は3種(ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ホンドイタチ)、両生類は1種類(トウキョウダルマガエル)、爬虫類は2種類(クサガメ、ヤマカガシ)、鳥類は7種類(チュウサギ、ノスリ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、カワセミ、コムドリ)、昆虫類は5種類(モートンイトトンボ、ハネナガイナゴ、ギンイチモンジセセリ、アオスジアゲハ、アサマイチモンジ)の希少種が確認されています。

自然環境調査は10年毎に実施しており、次回は令和4～5年度にかけて実施する予定です。

●さまざまな希少種



キタミソウ



チュウサギ

2-2. 緑地環境の保全 ☆重点的施策☆

1. 緑化の推進

(1) 緑道の整備 (都市計画課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
既存の緑道の維持を行う。		計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
緑道の面積	9.10ha (令和5年度)	実績	9.10ha	9.10ha	9.10ha		
		評価	A (100%)	A (100%)	A (100%)		

※「行田市みどりの基本計画」における目標値

(2) 壁面・屋上緑化の推進 (環境課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
緑のカーテンコンテストを実施し、壁面・屋上緑化を推進する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
緑のカーテンコンテスト応募件数	30件 (令和5年度)	実績	12件	10件	未実施		
		評価	C (40%)	D (33%)	E		

※令和2年度で事業が終了しました。

参考資料

《行田市みどりの基本計画》

みどりの基本計画とは、都市緑地法第4条に基づいて市町村が独自性、創意工夫を発揮し、緑地の保全から公園緑地の整備、その他の公共公益施設及び民有地の緑化の推進について、将来のあるべき姿とそれを実現するための施策を位置付けた、まちのみどり全般に関する総合的な計画です。

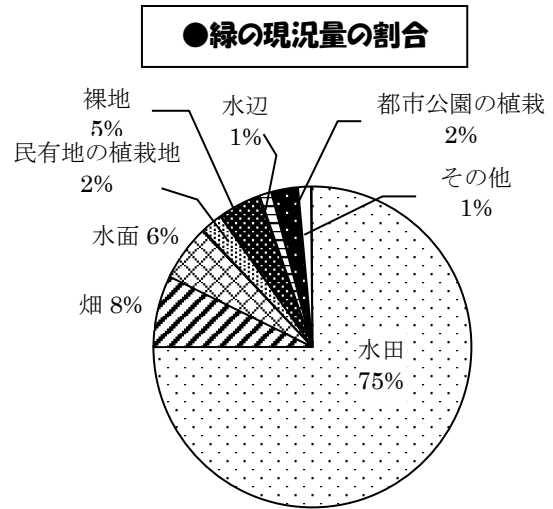
この計画は、平成27年度に策定され、関係計画である第2次行田市環境基本計画と整合を図りながら進めていくものです。



参考資料

《みどりの割合》

平成26年度の市全体の面積(6,737ha)に対する緑地や水辺の面積(4,099.1ha)は、61%です。そのうち、水田が約75%を占めています。自然林や人工林、二次林はほとんどありません。また、「民有地の植栽地」が5番目に多い(2%)ことから、屋敷林や雑木林などの緑が重要な役割を占めていると考えられます。

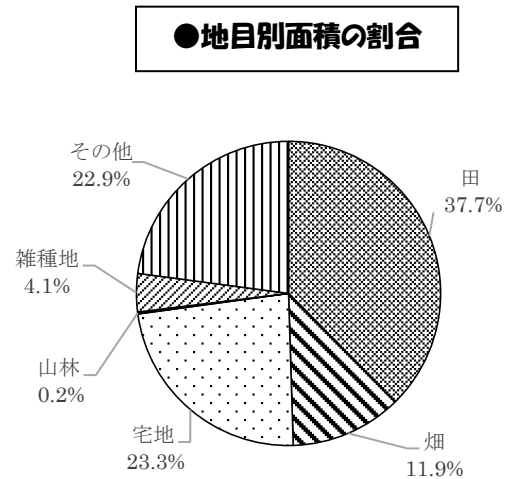


(合計 4,099.1ha)

資料：行田市みどりの基本計画

《地目別面積の割合》

市では、地目別面積の田と畑の合計が約5割となっており、依然として農業がさかんであることがわかります。しかし、前年と比較すると、宅地が1.4ha、雑種地が7.5ha増加するなど、わずかではありますが農地から宅地等への転換が見受けられてきています。



(合計 6,749.0ha)

資料：税務課（令和4年1月1日現在）

2. 緑地面積の保全

(1) 公園の緑地の保全(都市計画課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
都市公園の緑地を保全する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
公園の面積	1,147,100m ² (令和5年度※)	実績	1,112,779.7 ㎡	1,112,779.7 ㎡	1,112,779.7 ㎡		
		評価	B (97.0%)	B (97.0%)	B (97.0%)		

※「行田市みどりの基本計画」における目標値

(2)学校の緑地の保全(教育指導課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
学校敷地内の緑地を保全する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
学校の緑地面積	22.75ha (毎年度)	実績	22.75ha	22.75ha	22.75ha		
		評価	A	A	A		

(3)生産緑地の保全(都市計画課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
生産緑地を保全する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
生産緑地*の面積	20.62ha (令和5年度)	実績	19.90ha	19.81ha	19.65ha		
		評価	B (96.5%)	B (96.1%)	B (95.3%)		

※市街化区域内の農地で、市から生産緑地の指定を受けたもの。

(4)自然遺産周辺の美化活動(文化財保護課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
史跡・市指定天然記念物などの美化活動を実施する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
美化活動の実施回数	3回 (毎年度)	実績	8回	8回	8回		
		評価	A	A	A		

※保存会等の団体が除草等の清掃活動を実施。

(5) 樹木や雑草などの管理に関する相談の受付 (農政課 54・環境課 186)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
空き地における樹木や雑草の管理に関する相談を受け付け、管理者に指導する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
樹木や雑草などの管理に関する指導件数	150 件以下 (令和 5 年度)	実績	182 件	214 件	240 件		
		評価	C	D	D		

(6) 屋敷林・社寺林の保全 (都市計画課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
屋敷林・社寺林の保全のため、啓発を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
啓発活動件数	1 回 (毎年度)	実績	1 回	1 回	1 回		
		評価	A	A	A		

3. 緑とふれあう機会の創出

(1) 市民参加による緑化公園事業の実施 (都市計画課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
市民と協働し整備及び維持管理まで含めた公園づくりを実施する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
市民参加による緑化公園率	50% (令和 5 年度)	実績	25.0% 14/56 ヶ所	25.0% 14/56 ヶ所	25.0% 14/56 ヶ所		
		評価	C (50%)	C (50%)	C (50%)		

※新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を実施できませんでした。

(2) 森づくり環境再生事業の実施(都市計画課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
市内に生育する樹種の苗木を用いた森づくりを実施する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
植樹祭(育樹祭)の実施回数	1回 (毎年度)	実績	2回	1回	0回*		
		評価	A	A	—		

※新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を実施できませんでした。

2-3. 水辺環境の保全・創出

1. 水辺空間の保全(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
希少種の数(星川、切所沼) (自然環境調査)	15種類 (令和5年度実施)	実績	—	—	—		
		評価	—	—	—		
河川美化活動の実施回数	2回 (毎年度)	実績	1回	1回	3回		
		評価	C	C	A		

※自然環境調査は10年毎に実施しており、今回は令和4～5年度にかけて実施する予定です。

2. 親水空間の創出(都市計画課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
親水空間のある公園数	5ヶ所維持 (毎年度)	実績	5ヶ所	5ヶ所	5ヶ所		
		評価	A	A	A		

2-4. 環境に配慮した農業の振興

1. 環境保全型農業の普及(農政課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
エコファーマー認定数	24件 (令和5年度)	実績	0件	2件	0件		
		評価	E (0%)	D (8%)	E (0%)		
水田面積(農地台帳)	2,617ha (令和5年度)	実績	2,467ha	2,461ha	2,461ha		
		評価	B (94.3%)	B (94.0%)	B (97.4%)		

2. 地産地消の促進(農政課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
直売所の販売額	約1億4,326万円 (令和5年度)	実績	約1億2,613万円	約1億1,765万円	約1億5,910万円		
		評価	B (88.0%)	B (82.1%)	A (111.1%)		
軽トラ朝市(はちまんマルシェ)の販売額	960,000円 (令和5年度)	実績	1,305,340円	3,893,155円	5,153,937円		
		評価	A (136.0%)	A (405.5%)	A (536.9%)		
農業祭の実施回数	1回 (毎年度)	実績	1回	0回*	0回*		
		評価	A	—	—		

※「軽トラ朝市」は令和2年10月から「はちまんマルシェ」に移行しました。

※「彩の国食と農林業ドリームフェスタ」(農業祭)は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

3. 農業体験の促進(農政課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
田んぼアートの参加人数	1,000人 (令和5年度)	実績	972人	0人	674人		
		評価	B (97.2%)	—	C (67.4%)		

※田んぼアート事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小して実施しました。



② 基本目標 3 ～省エネ・創エネによるエコタウンの創出～

基本目標3に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、令和3年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 3 の重点的施策 】

～省エネルギーの推進～(P32～34)

～創エネルギーの推進～(P34～35)

●総括 重点的施策全体の進捗と目標達成状況

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は11（省エネルギーの推進：7、創エネルギーの推進：4）、施策に対する事業数は11（省エネルギーの推進：7、創エネルギーの推進：4）、施策の進捗や効果を測る指標・目標は12（省エネルギーの推進：8、創エネルギーの推進：4）あります。取組状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	10事業を予定どおり実施しました。（実施率 91%）
目標達成状況	<p>【単年目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単年目標である5指標のうち4指標が目標値を達成しました。（達成率 80%） <p>【主な累計目標の進捗率】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市街地の街路灯のLED照明導入率」については、平成27年度から助成事業を始めたもので、25.6%導入が進んでいます。 「整備実施済の学校数（小中学校屋内運動場の照明器具の改修）」については、計画的に順次整備を行い、令和3年度に事業が完了しました。 「温室効果ガスの排出量」「園内灯の効率化」「水道施設の電気使用量」「ポンプ場群の電気使用量」については、令和2年度時点で、目標である累計目標を達成していますが、この水準は引続き継続していきたいと考えています。

3-1. 温暖化対策の推進

行田市役所の温室効果ガス削減状況

市では、平成30年（2018年）3月に、第4次行田市役所地球温暖化対策実行計画を策定しました。この計画において、市（出先機関を含めた全ての組織や施設）の事務・事業から発生する温室効果ガス排出量を、令和4年度（2022年度）までに平成28年度（2016年度）の排出量を基準として4.0%以上削減することを目標に掲げ、下記の基本方針に従い、温室効果ガス排出量削減のための取組を行っています。

また、上記実行計画のほか、埼玉県地球温暖化対策推進条例第12条の規定に基づき、地球温暖化対策計画・実施状況報告を県へ提出し、ホームページ上で公開しています。

●温室効果ガス削減状況

基準値 (基準年)	目標 (令和4年度末)	実績 (令和2年度)
7,358.3 t-CO ₂ (平成28年度)	4.0% 以上削減 (7,064 t-CO ₂ 以下)	6.4%削減 (6,885.4t-CO ₂)

【基本方針】

- ・ 温室効果ガス排出量削減のための取組を徹底します。
- ・ 施設の老朽化に伴う設備の更新時には、省エネルギー設備を導入します。

【削減のための主な取組】

- ・ 不要な照明やOA機器などの電源を切っています。
- ・ 冷房時28℃、暖房時19℃を目安とします。
- ・ 次世代自動車の導入を推進しています。
- ・ 太陽光発電システムなどの自然エネルギーの活用を図っています。
- ・ 照明機器を計画的に省電力タイプにしています。

参考資料

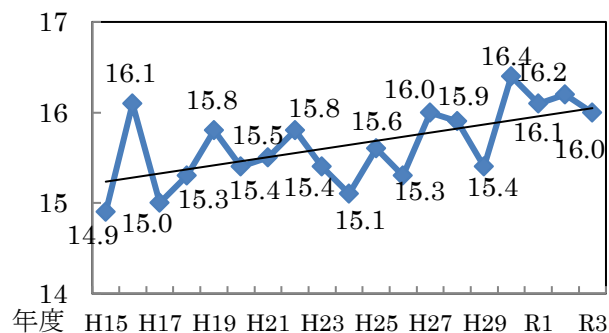
《行田市周辺の気温の変化》

行田市近傍（熊谷地方気象台）における令和2年の年間平均気温は16.0℃で、前年より0.2℃下がりました。

市でも、引き続きCO₂削減に向けた取組みが求められます。

気温(℃)

●年間平均気温の推移



資料：熊谷地方気象台

●施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

1. 温室効果ガス排出量の削減(環境課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
エコライフ DAY の実施回数	2回 (毎年度)	実績	2回 5,549人	2回 1,760人*	2回 6,142人		
		評価	A	A	A		
温室効果ガスの排 出量	7,092t-CO ₂ (令和5年度)	実績	6,809.6 t-CO ₂	6,830.6 t-CO ₂	6,885.4 t-CO ₂		
		評価	A (104.1%)	A (103.8%)	A (103.0%)		

※令和2年度のエコライフ DAY は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、小中学校での実施を見送りました。

2. 環境に配慮した交通の実現(交通対策課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
市内循環バスの利 用者	270,000人 (令和5年度)	実績	238,142人	166,929人	183,654人		
		評価	B (88.2%)	C (61.8%)	C (68.0%)		
駐輪場内における 長期駐輪自転車の 撤去回数	1回 (毎年度)	実績	1回 174台	1回 129台	1回 108台		
		評価	A	A	A		

※市内循環バスは、新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出制限等により、利用者数が減少しました。

環境に配慮した交通の実現(道路治水課)

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
自転車の利用しや すい道路の整備延 長(自転車歩行車 道：幅員3mま たは4m以上)	13,000m (令和5年度)	実績	11,510m	11,510m	11,510m		
		評価	B (88.5%)	B (88.5%)	B (88.5%)		

※令和3年度実績 0m

3-2. 省エネルギーの推進 ☆重点的施策☆

1. 省エネルギー活動の普及

(1) 省エネルギー活動の設備導入の支援 (環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
省エネルギー設備の導入のための支援を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
啓発活動件数	2回 (毎年度)	実績	2回	0回	0回		
		評価	A	E	E		

※太陽光発電システム設置補助事業は令和元年度で終了しました。

(2) 商店街街路灯のLED化に対する支援 (商工観光課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
既設街路灯の主要ランプをLED照明に替えるための費用及びそれに付随する修繕費の一部を助成する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
市街地の街路灯のLED照明導入率	20% (令和5年度)	実績	6.9%	13.3%	25.6%		
		評価	D (34.5%)	C (66.5%)	A (128%)		

2. 市による省エネルギーの率先行動

(1) 公園園内灯の効率化 (都市計画課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
公園園内灯に省エネルギー電灯を設置する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
公園園内灯のLED照明導入数	73基 (令和5年度)	実績	78基	91基	107基		
		評価	A (106.8%)	A (124.7%)	A (146.6%)		

※令和3年度実績 LED照明へ更新 16基

(2)公共施設の電気使用量の削減(環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
公共施設の電気使用量を削減する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
公共施設の電気使用量	13,162,640 kWh (令和5年度)	実績	13,059,545 kWh	13,112,750 kWh	13,112,750 kWh		
		評価	A (100.8%)	A (100.4%)	B (99.2%)		

(3)運転管理コストダウン実施の促進(水道課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
水道施設及び下水道施設(ポンプ場群)の運転管理におけるコストダウンを促進する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
水道施設の電気使用量	11,135kWh (令和5年度)	実績	10,665kWh	10,695kWh	10,457kWh		
		評価	A (104.4%)	A (104.1%)	A (106.5%)		

運転管理コストダウン実施の促進(下水道課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
水道施設及び下水道施設(ポンプ場群)の運転管理におけるコストダウンを促進する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
ポンプ場群の電気使用量	677kWh (令和5年度)	実績	656kWh	676kWh	670kWh		
		評価	A (103.2%)	A (101.5%)	A (101.3%)		

(4)環境に配慮した学校施設の整備 (教育総務課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
小中学校の屋内運動場の天井用照明器具（水銀ランプ・メタルハライドランプ等）をLED照明に替える。	計画	実施	実施	実施	—	—

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
整備実施済の学校数	24校 (令和3年度)	実績	14校	19校	24校	/	/
		評価	C (58.3%)	C (79.2%)	A (100%)	/	/

※令和3年度実績 5校

(5)雨水の利用 (中央公民館1、社会福祉協議会1)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
雨水を貯留して、トイレの水を流す際に使用する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
雨水貯留タンクの導入施設数	2ヶ所維持 (毎年度)	実績	2ヶ所	2ヶ所	2ヶ所	/	/
		評価	A	A	A	/	/

3-3. 創エネルギーの推進 ☆重点的施策☆

1. 再生可能エネルギーの利用促進

(1)太陽光発電システムの導入支援 (環境課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
太陽光発電システムの導入のための支援を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
太陽光発電システムの住宅設置率	20% (令和5年度)	実績	10.6% (2,505件)	11.1% (2,637件)	11.7% (2,774件)	/	/
		評価	C (53%)	C (55.5%)	C (58.5%)	/	/

(2)太陽光発電の実施(中央公民館)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
公共施設において、太陽光発電を実施する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
太陽光発電システムの導入施設数	3ヶ所維持(毎年度)	実績	3ヶ所	3ヶ所	3ヶ所		
		評価	A	A	A		

(3)太陽熱温水システムの活用(社会福祉協議会)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
太陽熱温水システムで作られた温水を館内の給水及び温水プールで活用する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
太陽熱温水施設の導入数	1ヶ所維持(毎年度)	実績	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所		
		評価	A	A	A		

(4)蓄電設備の活用(中央公民館)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
公共施設において、蓄電設備を活用する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
蓄電設備の導入施設数	1ヶ所維持(毎年度)	実績	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所		
		評価	A	A	A		



③ 基本目標 4 ～環境意識の向上と環境配慮活動の推進～

基本目標4に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、令和3年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 4 の重点的施策 】

～環境教育の充実～(P37～39)

●**総括** 重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は9（学校における環境教育の推進：6、環境学習の普及・啓発：3）、施策に対する事業数は9（学校における環境教育の推進：6、環境学習の普及・啓発：3）、施策の進捗や効果を測る指標・目標は9（学校における環境教育の推進：6、環境学習の普及・啓発：3）あります。取組状況を総括すると、以下のようになりました。

事業の進捗状況	9事業を予定どおり実施しました。（実施率 100%）
目標達成状況	【単年目標】 単年目標である9指標のうち、8指標で目標を達成しています。 （達成率 89%）

●施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

4-1. 環境教育の充実 ☆重点的施策☆

1. 学校における環境教育の推進

(1)環境教育に関する学習活動の推進(教育指導課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
企業や市民団体、県の事業を紹介し、環境教育の推進を図る。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
環境教育の実施校数	全校 24 校実施 (毎年度)	実績	全校実施	全校実施	全校実施		
		評価	A	A	A		

(2)寺子屋事業の状況確認(教育指導課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
学校や地域の良さを生かした創意あふれる特色ある教育活動を推進する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
寺子屋事業の実施校数	全校 24 校実施 (毎年度)	実績	全校実施	全校実施	全校実施		
		評価	A	A	A		

(3)学校緑化コンクール参加校の支援(教育総務課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
緑化コンクールへの参加校に対して種子、園芸用品などの購入補助などの支援を行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
緑化コンクールへの参加校数	2 校 (毎年度)	実績	2 校	0 校*	2 校		
		評価	A	—	A		

※新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでした。

(4)リサイクル運動の実施(教育指導課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
リサイクル運動を実施する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
リサイクル運動の実施校数	全校 24 校実施 (毎年度)	実績	全校実施	全校実施	全校実施		
		評価	A	A	A		

(5) 環境教育のアンケート調査(教育指導課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
アンケート調査を実施し、環境教育に関する活動状況を把握する。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
アンケート調査の実施校数	全校 24 校実施 (毎年度)	実績	全校実施	全校実施	全校実施		
		評価	A	A	A		

(6) PTA などによる緑化活動(教育指導課・教育総務課)

事業の概要		R1	R2	R3	R4	R5
児童生徒や PTA による除草及び花壇の整備や樹木の剪定などを行う。	計画	実施	実施	実施	実施	実施

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
学校緑化の実施校数	全校 24 校実施 (毎年度)	実績	全校実施	全校実施	全校実施		
		評価	A	A	A		

2. 環境学習の普及・啓発

(1) 出前講座の利用促進 (環境課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
環境に関する出前講座の利用を促進する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
環境に関する出前講座の実施回数	3回 (毎年度)	実績	3回	1回	1回		
		評価	A	D	D		

(2) 行田市民大学の開校 (生涯学習スポーツ課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
市民大学において環境教育関係講座を実施する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
市民大学における環境教育関係講座の実施回数	4回 (毎年度)	実績	4回	0回*	4回		
		評価	A	—	A		

※新型コロナウイルス感染症の影響で、市民大学を開校できませんでした。。

(3) 緑のボランティア清掃活動の推進 (生涯学習スポーツ課)

事業の概要			R1	R2	R3	R4	R5
緑のボランティアによる清掃活動を推進する。		計画	実施	実施	実施	実施	実施
指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
緑のボランティア清掃活動の回数	1回 (毎年度)	実績	0回*	0回*	1回		
		評価	—	—	A		

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止になりました。

4-2. 市民・事業者の自主的取組と協働の充実

1. 環境情報の発信（環境課）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
行田市環境報告書の公表	1回 (毎年度)	実績	1回	1回	1回		
		評価	A	A	A		
環境家計簿の啓発活動件数	1回 (毎年度)	実績	1回	1回	1回		
		評価	A	A	A		

2. 環境配慮活動の促進（環境課6・商工観光課0）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
市民(市民団体)、事業者との協働事業件数	5件 (毎年度)	実績	6件	2件	6件		
		評価	A	C	A		

環境配慮活動の促進（環境課）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
ごみゼロ運動の実施回数	2回 (毎年度)	実績	2回	1回*	2回		
		評価	A	C	A		
市内事業者のISO14001取得件数	25件 (令和5年度)	実績	21件	22件	30件		
		評価	B (84%)	B (88%)	A (120%)		

※令和2年度春のごみゼロ運動は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

環境配慮活動の促進（都市計画課）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
公園の美化活動の実施回数	3回 (毎年度)	実績	3回	0回*	0回*		
		評価	A	—	—		

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

環境イベントの実施（農政課）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
緑や花のイベントの実施回数	3回 (毎年度)	実績	2回	2回	8回		
		評価	C (66.6%)	C (66.6%)	A (267%)		
サケ観察会(採卵、放流)の実施回数	2回 (毎年度)	実績	1回	1回	1回		
		評価	C (50%)	C (50%)	C (50%)		

※サケの遡上観察会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

4. 環境専門家の育成（環境課）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
埼玉県環境教育アシスタント及び埼玉県環境アドバイザーの登録件数	8人 (令和5年度)	実績	4人	5人	5人		
		評価	C (50%)	C (62.5%)	C (62.5%)		

※「環境教育アシスタント」は、令和2年度から「環境アドバイザー」に統合されました。

4-3. 市の環境配慮の率先実行

1. 市による環境対策の推進（環境課）

指標名	目標		R1	R2	R3	R4	R5
行田市環境報告書の公表(再掲)	1回 (毎年度)	実績	1回	1回	1回		
		評価	A	A	A		

参考資料

環境保全活動

《市による環境保全活動》

市では、市民への環境問題の啓発を行い、市民や事業者と一緒に環境保全を行うためのイベントを定期的に行っています。

●主な環境保全活動、イベント(令和3年度)

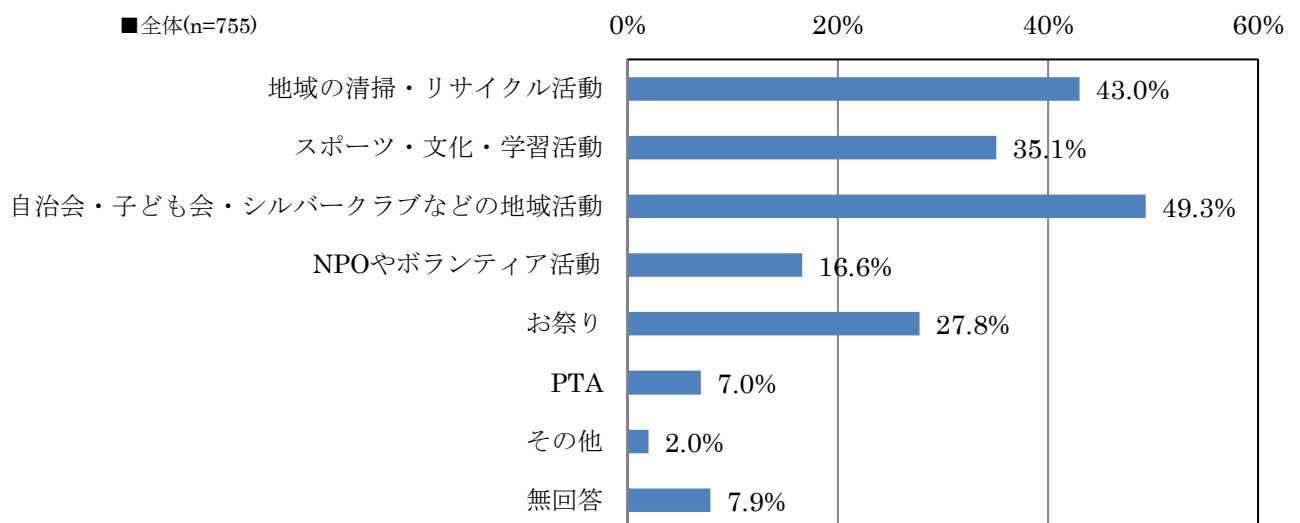
イベント名	時期	概要
ごみゼロ運動(2回)	令和3年 5月16日 令和3年 11月20日	市内清掃活動を行いました。
ごみ問題を考えるつどい	中止	新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になりました。
出前講座(1件)	令和3年5月24日	以下のテーマで出前講座を行いました。 ・みんなで考えるごみ問題の現在と未来

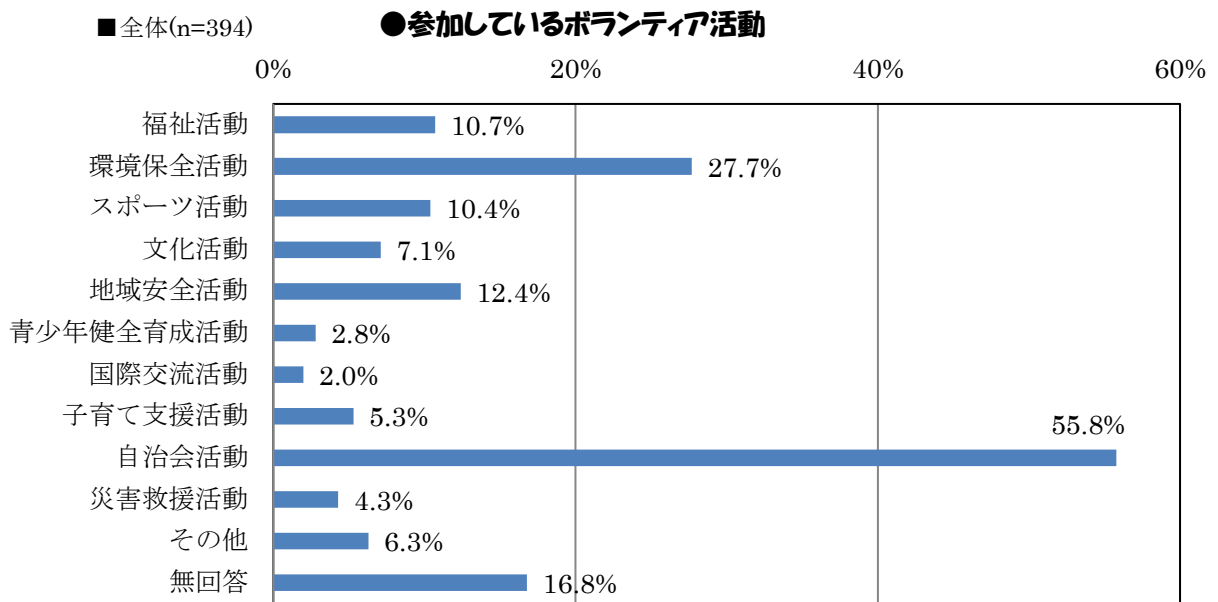
資料：環境課

《行田市民意識調査》

市では、令和元年度に行田市民意識調査を行いました。参加したい地域活動について聞いたところ、4割以上の方が「地域の清掃活動」と回答しました。また、参加しているボランティア活動については、約3割が「環境保全活動」と回答しており、環境に対する市民の高い意識がうかがえます。

●参加したい地域活動





資料：行田市民意識調査報告書



行田市環境活動マップ～どこでどんな活動をやっているの？

市民団体と市が協働で取り組んでいる環境保全活動を紹介します。近くで行われている活動や、興味がある分野の活動があったら、参加してみたいかどうかでしょうか。

○いのちを守る森づくり

子供たちに木や土のぬくもりを肌で感じてもらい、自然の重要性や命の大切さを伝えることを目的として、平成20年度から始めました。これまでに、総合公園や古代蓮の里等に1万2千本以上もの苗木を植樹し、小さかった苗木が今では背丈を越すほどの木々へと成長しています。

* 都市計画課 (TEL: 048-550-1550)



○水城公園等清掃活動

地域の自治会などとともに、水城公園等の清掃を年3回行っています。



* 都市計画課
(TEL: 048-550-1550)

○ホタルの保全活動

「古代蓮の里ホタルの会」のボランティアと市が協力して、ホタルの幼虫の飼育・観察や放流などを行っています。

* 都市計画課
(TEL: 048-550-1550)



○田んぼアート

田植え体験者(一般参加者)及び田植えボランティアなどとともに、古代蓮の里東側にある2.8haの水田をキャンパスとして、色彩の異なる稲を植え付け、アートを作る取り組みです。



* 農政課 (TEL: 048-556-1111)

○みんなで守ろうふるさとの森～緑のボランティア～

「行田ナチュラルリストネットワーク」及び「行田市ジュニア・リーダーズ・クラブ」により、年1回、3月末の日曜日に、埼玉地区にある前玉(さきたま)神社で、樹木の間引き、枝切り、除草、ごみ拾いなどの手入れを行っています。



* 教育委員会生涯学習スポーツ課 (TEL: 048-556-8319)

○市内一斉！清掃活動

環境美化の一環として、年2回春と秋に、「行田市衛生協力会連合会」・「行田市自治会連合会」の共催で、市民のみなさんと一緒に、市内一斉に清掃活動を実施しています。

* 環境課 (TEL: 048-556-9530)



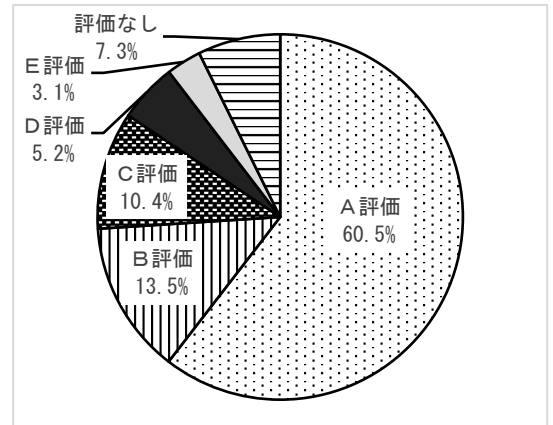
全体総括

実行計画（後期）の策定から3年が経過し、多くの施策が順調に進捗しており、60%以上の施策で目標を達成しています。目標が未達成の施策は、目標の達成に向け、取組みを推進していきます。

一方で、新型コロナウイルスの影響で事業が実施できなかったものも一定数見られます。イベントなどは今後の感染状況を鑑み、開催の判断をしていきます。

また、第2次行田市環境基本計画策定時からの情勢の変化や事業の終了などにより、E評価となっている項目もあります。令和5年度策定予定の「第3次行田市環境基本計画」の中で、より効果的で実情に即した施策を検討していきます。

●評価の分布



指標・評価一覧表(令和3年度分)

(基本目標 1)
～環境負荷の低減による循環型社会の形成～

指標名	評価	頁
ダイオキシン類濃度	A	10
浮遊粒子状物質 (SPM) 濃度	A	10
二酸化硫黄 (SO2) 濃度	A	10
二酸化窒素 (NO2) 濃度	A	10
野外焼却に対する指導件数	C	11
低公害車などの導入率 (公用車)	A	11
低公害車などの導入率 (市内循環バス)	A	11
有害性の低い薬剤の使用 (樹木など)	A	11
河川の水質に関する環境基準 (BOD)	B	12
河川の水質に関する環境基準 (pH)	B	12
河川の水質に関する環境基準 (SS)	B	12
河川の水質に関する環境基準 (DO)	B	12
河川の水質に関する環境基準 (COD)	C	12
河川の水質に関する環境基準 (T-N)	D	12
河川の水質に関する環境基準 (T-P)	E	12
合併処理浄化槽の転換補助件数	B	12
下水道普及率	B	12
土壌のダイオキシン類濃度	A	14
河川底質のポリ塩化ビフェニル (PCB)	A	14
河川底質の総水銀 (T-Hg)	A	14
地下水水質のトリクロロエチレン	A	14
地下水水質のテトラクロロエチレン	A	14
地下水水質の1,1,1-トリクロロエタン	A	14
地盤沈下対策の透水性舗装の整備面積	B	15
道路騒音の環境	C	15
上越・長野新幹線騒音の測定値	A	15
★ごみ集積場における未分別件数	D	16
★粗大ごみ処理場の稼働率	A	17
★環境センターの放流水の水質	A	17
★長善沼最終処分場の地下水の水質基準達成率	A	17
★廃棄物を適正に処理するため、新処理施設を建設する建設する	-	18

(基本目標 2)
～先人から受け継いだ自然環境の保全～

指標名	評価	頁
★不法投棄防止看板の設置件数	A	18
★資源物のリサイクル率	D	19
★不用品情報の利用件数	B	19
★廃食用油の回収量	C	19
★建設リサイクル法に基づく、届出に対する分別解体状況の確認	A	20
★建設リサイクル法に基づく、届出工事の監視・パトロール回数	A	20

○ 「★」印は重点的施策

○ 「単年目標」の評価基準は、下記のとおりです。
A=目安：100%
B=目安：80%以上
C=目安：40～80%
D=目安：40 未満
E=目安：0%

「-」=評価が困難
事業実施予定なし

○ 「累計目標」の評価基準は、進捗率をもとに、「単年目標」に準じて表記 (A～E) していません。
下線を引いた指標=「累計目標」

指標名	評価	頁
ビオトープの設置数	A	21
希少種の数 (自然環境調査)	-	22
動植物の数 (自然環境調査)	-	22
指定文化財 (樹木) の箇所数	A	22
特定外来生物などの啓発活動	A	22
★緑道の面積	A	23
★緑のカーテンコンテスト応募件数	E	23
★公園の面積	B	24
★学校の緑地面積	A	25
★生産緑地の面積	B	25
★美化活動の実施	A	25
★樹木や雑草などの管理に関する指導件数	D	26
★屋敷林・社寺林の保全のため、啓発活動	A	26
★市民参加による緑化公園率	C	26
★植樹祭 (育樹祭) の実施回数	-	27
希少種の数 (星川、切所沼)	-	27
河川美化運動の実施回数	A	27
親水空間のある公園数	A	27
エコファーマー認定数	E	28
水田面積 (農地台帳)	B	28
直売所の販売額	A	28
軽トラ朝市の販売額	A	28
農業祭の実施回数	-	28
田んぼアートの参加人数	C	28

(基本目標 3)
～省エネ・創エネによるエコタウンの創出～

指標名	評価	頁
エコライフ DAY の実施回数	A	31
温室効果ガスの排出量	A	31
市内循環バスの利用者数	C	31
駐輪場内における長期駐輪自転車の撤去回数	A	31
自転車の利用しやすい道路の整備延長	B	31
★省エネルギー設備の導入のための啓発活動	E	32
★市街地の街路灯の LED 照明導入率	A	32
★園内灯の LED 照明導入数	A	32
★公共施設の電気使用量	B	33
★水道施設の電気使用量	A	33
★ポンプ場群の電気使用量	A	33
★整備実施済の学校数	A	34
★雨水貯留タンクの導入施設数	A	34
★太陽光発電システムの住宅設置率	C	34
★太陽光発電システムの導入施設数	A	35
★太陽熱温水施設の導入数	A	35
★蓄電設備の導入施設数	A	35

(基本目標 4)
～環境意識の向上と環境配慮活動の推進～

指標名	評価	頁
★環境教育の実施校数	A	37
★寺子屋事業の実施校数	A	37
★緑化コンクールへの参加校数	A	37
★リサイクル運動の実施校数	A	38
★アンケート調査の実施校数	A	38
★学校緑化の実施校数	A	38
★環境に関する出前講座の実施回数	D	39
★市民大学における環境教育関係講座の実施回数	A	39
★緑のボランティア清掃活動の回数	A	39
行田市環境報告書の公表	A	40
環境家計簿の啓発活動件数	A	40
市民 (市民団体)、事業者との協働事業件数	A	40
ごみゼロ運動の実施回数	A	40
市内事業者の ISO14001 取得件数	A	40
公園の美化活動の実施回数	-	40
緑や花のイベントの実施回数	A	41
サケ観察会 (採卵・放流) の実施回数	C	41
埼玉県環境教育アシスタント及び埼玉県環境アドバイザーの登録件数	C	41
行田市環境報告書の公表 (再掲)	A	41

～皆様からのご意見・ご感想をお聞かせください～

市の環境施策や、この「令和4年度版 行田市環境報告書～この地球とともに～」について、お気づきの点やご意見、ご感想等がございましたら、下記までご連絡ください。

今後の環境施策の推進や、よりわかりやすい環境報告書づくりの参考にさせていただきます。

【あて先】



行田市環境経済部環境課

〒361-0031 埼玉県行田市緑町 13 番 12 号

電話：(048) 556-9530 FAX：(048) 553-0792



令和4年度版 行田市環境報告書
～この地球とともに～

令和 年 月発行

発行 行 田 市

編集 行田市環境経済部環境課

〒361-0031

埼玉県行田市緑町 13 番 12 号

電話 (048) 556-9530

FAX (048) 553-0792